

4. 角倉邸跡（花のいえ）

◇基本情報

所在地：京都市右京区嵯峨天龍寺角倉町9

敷地面積：約 5,000 m²(約 1,500 坪)

所有者：(当初) 角倉了以

(現在) 公立学校共済組合



玄関 唐門

◇概要

保津川を西に臨む河畔に位置し、庭を中心に常緑針葉樹にうっそうと囲まれた邸宅で、門から左に入ると枯山水の庭が奥に広がっている。

角倉了以は邸宅を本拠に息子の角倉素庵と共に何度も現地調査をし、「保津川疎通」の計画を立て「徳川幕府」の許可を得て 1606 年（慶長 11 年）に難工事の末、竣工にこぎつけている。薪炭、などの丹波の産物を京へ運ぶため、舟運の便を開き、通行税を回収するためにこの地に舟番所を設けた。

1951 年（昭和 26 年）には、邸宅跡地に公立学校共済組合の嵐山保養所として「花のいえ」が開設され、1970 年に現在の建物（鉄筋コンクリート造二階建）に増改築され、2017 年（平成 29 年）に行われたリフレッシュ工事では、角倉了以の邸宅当時のものと言われている「玄関唐門」や「關鳩楼（かんきゅうろう）」の檜皮葺屋根を修繕し、歴史ある景観を今後に残していくとともに庭園も散策しやすくするための補修工事が行われている。

こうした京都を象徴する歴史や文化の伝承が評価され、2020 年（令和 2 年）11 月に「花のいえ 關鳩楼」が“京都を彩る建物や庭園”に選定されている（選定番号 第 10-035 号 京都市文化財保護課）。

◇建物

「關鳩楼」は「ごてんの間」として約 400 年もの長きにわたり風雪に耐え、今日まだその威厳を保ちながら宿泊客に利用されている。建物は栗材が多く使われており、天井と畳、窓ガラス等は現代のものを使用しているが、他は当時の姿を保っている。

關鳩楼の扁額は江戸時代初期の林学創始者林羅山のものと伝えられる。狩野派の杉戸絵や書院に展示されている雪見灯籠（銘 天正元年 与次郎）や江戸時代中期の画家長澤蘆雪の絵（京都市有形文化財）も所蔵している。



關鳩楼（かんきゅうろう）

◇庭園

小堀遠州作と伝わっている枯山水の中庭園や、茶室前庭にある織部好みの灯籠は切支丹灯籠とも呼ばれ、下部にある人型は切支丹迫害の歴史を秘めて彫られたマリアの像ではないかと言われている。このように庭園全体は作庭当時からほとんど手を加えられておらず、角倉了以の邸宅当時の面影を色濃く残している。

また、庭園中央にある「さるすべり」の木は樹齢 200 年に達しているのではと推測されている。



中庭園



切支丹灯籠

◇参考資料

- 1) 花のいえホームページ : <https://hananoie.gr.jp>
- 2) おにわさん : <https://oniwa.garden/arashiyama-ryokan-hananoie/>
- 3) 国史大辞典,日本大百科全書, 世界大百科事典 : 林羅山
<https://japanknowledge.com/introduction/keyword.html?i=803>
japanknowledge.com
- 4) フリー百科事典 Wikipedia : <https://ja.wikipedia.org/wiki/長沢蘆雪>